

編集後記

2018（平成30）年度には、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。地域で生活することを支える内容にますますシフトすると予想され、在宅・地域と施設間での看護がシームレスに行われることが求められることは言うまでもありません。そして、2025年には、日本の人口の4分の1は75歳以上の高齢者になると予想されています。高齢者が増え続けると同時に、医療費も増加の一途をたどっており、このままでは国家財政がパンクしかねません。このことへの対策としては、WHOが提唱した「健康寿命」、いわゆる医療や介護のお世話にならず、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間の延長が挙げられます。

このような、その人らしくいられるための支援を予測的に行えるのは、看護だと思います。われわれが何をすべきなのか、そのためにはより良い看護に関するエビデンスの蓄積が必要です。日頃行っている看護を、目の前の対象者さんに提供するだけでなく、皆で共有する場として誌上発表を活用してください。

東邦看護学会は、東邦看護研究会から学会へ発展して7年目を迎えました。本誌は、機関リポジトリへの登録を開始してからダウンロード件数が年々増加しており、2014年度12,342件、2015年度21,928件、2016年度（4月～11月）はすでに18,625件にも及びます。東邦学内だけではなく、国内他大学、医療関連団体、教育委員会、国内企業、地方公共機関、そして海外からと幅広く閲覧していただいております。今年度より1号は学術集会抄録集として発刊し、本誌14巻2号には、原著1編、研究報告2編、実践報告1編、資料1編、寄稿1編を掲載しております。この場を活用し、日頃の取り組みを発信してください。

最後になりましたが、査読者の皆様には大変お忙しい中、論文掲載に向けてご協力をいただきましたこと深く感謝申し上げます。

そして、これまで英文タイトルの校正をご担当くださっていただきましたTotten先生が2017年3月をもちまして看護学部外国語非常勤講師を退任されます。長きにわたりさまざまなご指導を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

Professor Totten, a part-time English lecturer at the Faculty of Nursing, has been responsible for proofreading English titles for long but is retiring this March, 2017. We deeply appreciate for your continued cooperation.

村上 好恵

編集委員会

委員長	村上 好恵	(東邦大学看護学部)
委員	山田 緑	(東邦大学看護学部)
	ケニヨン 充子	(東邦大学看護学部)
	小林 敏子	(東邦大学医療センター大橋病院)
	徳留 彰子	(東邦大学医療センター佐倉病院)
	新田 汐里	(東邦大学看護学部)
	橋本 裕	(東邦大学医療センター大森病院)
	門田 昌子	(東邦大学医療センター佐倉病院)
	芳澤 正子	(東邦大学医療センター大森病院)